

# カレッジ通信

編集・発行  
東京建築カレッジ

授業見学  
大歓迎!  
Tel 03  
(5950)  
1771

## 墨付けも刻みも力を合わせて 第27期 実習棟を上棟! 木造軸組み工法を体感

1年生の  
授業から

用意した部材を安全第一で慎重に組み上げました。午後3時くらいに上棟を終えました。1月28日



1年生(第27期生)の授業の大きなヤマ場、実習棟の上棟が1月27日・28日に、江東実習場で行われました。自分たちで墨付けし、手刻みで伝統構法を取り入れた木造軸組み構造の建物をつくる体験は貴重です。現在の戸建て住宅新築はプレカット材の組み立てがほとんどであり、分業化も進んでいるため、総合的な建築施工の体験がなかなかできません。こうした状況から東



京建築カレッジの体験型授業は教育熱心な事業所から歓迎されています。実習棟実習は上棟後も続きます。次週には自分たちで建てた実習棟で「構造実験」授業を行い、軸組みの家の粘り強さや弱点を数値と目視で確認します。その後、屋根の野地板、内法(うちのり)、2年次最初の実習課題「廻り階段」と、授業は続いていきます。

「入学願書」等応募書類の提出締め切り  
・・・2月17日(金)

最終入学選考会  
・・・2月22日(水)午前9時20分開始

学校見学を歓迎します。来校の際に学校説明も行ないます。

毎週金曜日・土曜日は授業も見学できます。

東京建築カレッジを新入教育制度に導入している中小建設会社への就職紹介もしています。

お気軽にお問い合わせください。

☎: 03-5950-1771  
東京土建技術研修センター内、建築カレッジ

### 第28期生(今春入学生)最終募集

学校紹介はこちらから



終了後の記念撮影。時間ギリギリで組み上げた2人の作品を前に置きました。前日まで連日、特訓して試験に臨んだ人もいます。審査は図面、墨付け、加工、出来栄の各段階で厳正に実施。互いの作品を相互評価し、先生から反省点を指摘を受ける授業もあります。

本校には修了(卒業)試験の位置付けの試験があります。「技能照査試験」です。「実技」と「学科」で構成し、実技試験は「化粧棒隅木」(寄棟屋根の角の構造)が課題。原寸図、墨付け、加工、組み立ての各段階を厳正に審査する試験です。

2年生の  
授業から

1月20日・21日に実技試験が行われ、全員が時間内に組み上げることができました。「これが一人でできるようになれば大工として一人前だ」と話す親方もいる重要な課題です。大工職以外でも、設計職がこの課題で好成績を出せば、職人さんから一目置かれるようになり、現場でのコミュニケーションがよりうまくいくようになります。

技能照査(実技)試験

### 時間内に全員組み上げ



# 実習棟上棟日の「日報」から

東京建築カレッジでは日々の受講の証として「日報」の提出を研修生に課しています。1月28日の実習棟上棟は1年次の授業のピークです。「日報」記述内容にも感じます。その一部を紹介します。

「ケガ無く終えられたのが良かった。柱の墨付け、加工は、すべての部材に絡んで来ることを学んだ」  
 「歪みを直しながらの2階部分、小屋組みの建方。全員が進んで協力し作業できていた」  
 「ついに完成。屋根がとてもかっこいい」

完成しました。屋根がとてもかっこいい。敷地が狭い中で、役割が分からなくあつたが声をかけあつて完成してうれしかった！  
 「日報」記述内容にも感じます。その一部を紹介します。

「ケガ無く終えられたのが良かった。柱の墨付け、加工は、すべての部材に絡んで来ることを学んだ」  
 「歪みを直しながらの2階部分、小屋組みの建方。全員が進んで協力し作業できていた」  
 「ついに完成。屋根がとてもかっこいい」



上棟の儀も体験しました。中央は岩佐俊光指導員

△棟が上がって感動しました。周りに助けられたり、盛り立ちました。

てもらうことばかり。次は自分が周りを助けて盛り上げていきたい。一生忘れられない経験になりました。

## 現在、入学予定21人確保 あと4人入学できます！

本校の入学定員は20人ですが、施設条件から25人まで入学を受け入れています。1月25日の第5回入学選考会までで21人が入学予定になりました。あと4人受け入れが可能です。

### ◎女性の新入職を歓迎！ カレッジに通える就職先も紹介

今年4月入学の第28期生では複数の女性が入学予定です。建築業界には女性が活躍できる職種もあります。人と自然にやさしい建築のプロへの第一歩を建築カレッジから始めませんか？就職相談もお気軽に！



高い志を持って学びに来た仲間に出会えます

## 「ついに完成。屋根がとてもかっこいい」

## 元 教務運営委員 赤地龍馬先生を偲ぶ

昨年6月逝去・開校準備段階からカレッジに貢献



元東京建築カレッジ教務運営委員で、カレッジ開校以前から東京土建の組合員向け教育活動に貢献されてきた赤地龍馬（りゅうま）さんが昨年6月28日にお亡くなりになっていたことがわかりました。89歳でした。毎年年賀状を送っているカレッジ関係者にご家族から連絡がありました。赤地さんは1933年8月5日生まれ。日本大学工学部（当時）建築学科卒業後、都立工業高校建築科の教員と

なった後、教員組合活動の一環で東京土建の組合員向け教育活動に参加、二級建築士受験準備講座などに尽力されました。東京建築カレッジには開校準備段階から関わり、開校後は設計製図系授業を始め学習指導で大きな役割を果たしました。

### 赤地さんは戦友、先達。

初代学校長 藤澤 好一  
 カレッジの設置・運営についての困難への向き合いということでは戦友といえるかもしれませんが、私にとっては先達でした。普段は物静かで、発言も多くはありませんでしたが、強く意見を述べられることがありました。それはカレッジ生目線からのもので、方針を見直したことも

ありました。

カレッジ生との懇親の席には必ず出席され、常温の日本酒を片手に、その眼差しはやさしくいつもカレッジ生に向けられていました。どうぞおやすらかに。



（左上写真）第22期生卒業制作発表会（2019年3月）、（左写真）カレッジ初期の基礎製図授業の様子